

7月



令和3年6月25日  
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育7月のねらい」  
布施奉仕

「優しさの連鎖」

園長 佐藤和順

早いもので、1学期最後の月となりました。4月に入園・進級し3ヶ月が過ぎ、園での活動も活発になり、一人ひとりの身体と心の成長を日々実感しています。

さて今月の保育目標は「布施奉仕(ふせほうし)誰にでも親切にしよう」です。他人に親切にすることはまわりまわって自分にもどってきます。そうした利害をぬきにしてどんなときも隠れた親切が、社会を明るくすることをしらせていきたいと考えています。

今、園では前号でもお知らせしたとおり様々な植物を育てています。園児も機会を見つけては植物に水やりをしています。「大きくなってね。」「早く、お花が咲くと良いな。」等、植物に声をかけながら水をあげる姿も見られます。また、園庭にはダンゴムシをはじめ子どもたちが興味をもつ虫たちがたくさん見られます。子どもたちは、木をゆすったり、プランターを動かしたりして、それらの虫を見つけようとしています。虫を見つけた後、観察ケースに入れたり、手に乗せ友だちに見せたりしています。先日、ある子どもが手を握り過ぎてしまって、中のダンゴムシが死んでしまいました。気づいた子が、投げて捨てようとしたのですが、近くにいた友達から「投げたら、かわいそうだよ。」「もう死んでるから、埋めなきゃだめだよ。」「手で持ったら、死んじゃうから捕まえたら逃がしてあげなきゃ!」等々、たくさんの言葉がかけられていました。

水やりの姿や、虫に対する言葉がけの気持ちは、誰かに褒めてもらうためにしているのではなく、純粋な植物や虫を思う気持ちの現れだと思います。誰かに強制されているのではなく、子どもの心の中から出た気持ちや言葉です。私たち大人は、それをしっかりと受け止め、時には言葉や行動で褒めることによって次につなげていかなければなりません。そしてそれを広げていかなければなりません。

子どもでも、自分にできる範囲で他者やものに対して親切にすることができます。植物や虫に向けた気持ちが友達へと広がり、人から「ありがとう」と笑顔で言われることで、良いことをした喜びを味わうという経験が幼児期には重要です。その経験が次もまた誰かのために「何かしよう」という気持ちにつながります。優しい気持ちが、また優しい気持ちに受け継がれていくのです。

